北大ピアノクラブ

Summer Concert 2023

サマーコンサート

2023 年 7 月 17 日（月）

開場 12:00　開演 12:30

札幌市民交流プラザ SCARTS コート

入場無料

Mail：hokudaipc2023@gmail.com / Twitter：@hokudai_piano / Instagram：@hokudai_piano

ご挨拶

本日はお忙しい中、北大ピアノクラブサマーコンサートにお越しいただき、誠にありがとうございます。

北大ピアノクラブはピアノを通じた部員同士の交流を目的としたサークルで、週１回の例会と年数回の定期コンサートを行っております。少し前までコロナ禍による制限を受けながら活動していたのですが、ようやく規制が緩和されて様々なコンサートやイベントを復活することができ、非常に嬉しく思います。現在は約 90 名の部員が在籍し、他大学の方や留学生の方も増えたことで、日々楽しく活動しております。

さて、今回のサマーコンサートは、部員が日々練習に取り組んでいる曲を発表する場として開催致しました。夏らしい季節感のある曲、誰もが聴いたことのある有名な曲、反対に部員ですら知らないようなマニアックな曲など、各演奏者の個性が現れたプログラムとなっております。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください！

最後になりましたが、本日の開催にあたり、ご支援ご協力をいただきました関係者のみなさまに心より御礼申し上げます。

北大ピアノクラブ　部長　浜口怜子

お客様へ

開演に先立ちまして皆様にお願いがございます。

・会場内でのご飲食、ご喫煙はご遠慮ください。

・携帯電話や時計のアラームなど音の出る機器は、あらかじめ電源をお切りください。

・演奏者の許可のない録音・録画・写真撮影はご遠慮ください。

・演奏中の移動や会場の出入りはご遠慮ください。やむを得ず会場の外に出られる際は、係の者の指示に従ってください。

・会場内では、個人の判断により必要に応じたマスクの着脱をお願い致します。

全てのお客様に快適にお楽しみいただけますよう、ご協力をお願い致します。

目次

〈第一部〉

1. ショパン：エチュード op.10-1 ハ長調
   農学部生物環境工学科　4 年　浅井久悟（あさいきゅうご）

2. メンデルスゾーン：無言歌集 第 6 巻 嬰ヘ短調 op.67-2 U145「失われた幻影」
   HUSTEP　4 年　ギヨーム・アデル

3. モーツァルト：ピアノ・ソナタ 第 2 番 ヘ長調 K.280 第 3 楽章
   ラヴェル：「クープランの墓」 1. プレリュード
   工学部環境社会工学科　2 年　浜口怜子（はまぐちれいこ）

4. シューマン：子供の情景 第 1 番～第 13 番 Op.15
   理学部数学科　3 年　武藤慎治（むとうしんじ）

〈第二部〉

5. ドビュッシー：前奏曲集 第 2 集より 「花火」
   工学部環境社会工学科　2 年　酒向みなみ（さこうみなみ）

6. ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第 17 番 ニ短調 Op.31-2 「テンペスト」第 3 楽章
   歯学部　3 年　青山翔（あおやましょう）

7. ショパン：ワルツ 第 6 番 変ニ長調 Op.64-1 「子犬」
   ラフマニノフ：練習曲「音の絵」 第 6 番 イ短調 Op.39-6
   工学部機械知能工学科　3 年　坂野遼太郎（ばんのりょうたろう）

8.　ショパン：舟歌 嬰ヘ長調 Op.60
医学部保健学科　卒　永山聖士（ながやままさし）

9.　アルカン：グランドソナタ 「4 つの時代」 Op.33 4 楽章 「50 代-縛られしプロメーテウス-」 極端に遅く
理学部数学科　4 年　笹木元太（ささきげんた）

〈第三部〉

10.　リスト：愛の夢 第 3 番
工学部環境社会工学科　3 年　早川桂佑（はやかわけいすけ）

11.　モーツァルト：ピアノ・ソナタ 第 9 番 ニ長調 K.311
薬学部薬学科　6 年　成家康太（なりやこうた）

12.　モーツァルト：四手のためのピアノ・ソナタ　ニ長調　K.381 (123a)
農学院生命フロンティアコース 修士 1 年　川満龍平（かわみつりゅうへい）
工学部機械知能工学科　3 年　坂野遼太郎（ばんのりょうたろう）

第一部

1.　ショパン：エチュード op.10-1 ハ長調

農学部生物環境工学科　4 年　浅井久悟（あさいきゅうご）

〈曲紹介〉

エチュードとは練習曲を意味しますが、ショパンの作ったエチュードは単にテクニックを伸ばすための練習曲にとどまらず、音楽的にも非常に完成された作品になってます。作品番号 10 はショパンのピアノ協奏曲第 1 番を弾くために作られた練習曲集と言われていますが、練習曲といっても簡単なものではなく、かつてショパンがこの作品番号 10 をリストに献呈した際、どんな曲でも初見で弾きこなすことで有名だったリストでさえ弾けなかったほど難しいです。その中でもとびきりの難易度を誇るのがこの 10-1 で、広範囲のアルペジオが連続した曲となってます。

私がこの曲と初めて出会ったのは私が高校生の頃に見たピアノの森というアニメで主人公が弾いていたのを聞いた時です。とても華やかに音が広がっていくこの曲に一瞬で魅了され、高校時代にはいろんな人の演奏をよく聴いていました。個人的にこの曲は疾走感があり、ポロポロと奏でられる音は光の粒のように感じられるため、一瞬で過ぎ去っていったあの夏の青春を感じさせてくれる曲です。精一杯頑張って弾かせてもらいます！！

〈他己紹介〉

ピアノクラブの部員 3 人と網走監獄に行った時のことです。

観光を終えて門の外に出たところ、目の前に監獄の門によじ登り脱獄犯に擬態して写真を撮っている見ず知らずの大学生 10 人組くらいのグループが居ました。

""監獄の敷地内の方を向いて""門によじ登っていた彼らを見るや否や浅井君は目にも止まらぬ速さで「逆やろ！」と一喝。

動揺する大学生集団を横目に「大阪人の血が騒いでしまった…」と呟く彼に私は「石川五右衛門か」とさらに突っ込みたかったですが、本場のツッコミを見せら

れた手前何も言い出せずにいました。
度々「大阪っぽくない」といじられる彼の秘めたる""大阪""が出てしまった瞬間でしたとさ。
めでたしめでたし(?)

2. メンデルスゾーン：無言歌集 第 6 巻 嬰ヘ短調 op.67-2 U145「失われた幻影」
HUSTEP　4 年　ギヨーム・アデル

〈曲紹介〉
無言歌集は 8 つの巻に分けられている、1830 から 1845 に作曲された小品です。1845 年に、メンデルスゾーンは Op.67 の 2 番（失われた幻影）を作曲して、友達の妻に捧げました。

〈他己紹介〉
9 月から日本に交換留学生としてやってきたスイス出身のアデル。世界的なシンガーと同じ名前で、過去の誕生日プレゼントで両親から CD をプレゼントされたこともあったみたいです。それはさておき、ピアノクラブの例会出席率も高く部員ならば一度は見たことがある人が多いはずです。筆者は当たり前のように日本語で話すのですが、彼女は日本語を話すのがうますぎる！！たった 2、3 年勉強しただけで我々ネイティブと問題なく会話できます。どれだけ凄いかというと、若者言葉（例えば、マジやばい、だるい）を当たり前のように使います。
その上彼女は大学で東アジアの専攻であるので、日本語だけでなく中国語、韓国語も少し話せるみたいです。母国語のフランス語そして英語ドイツ語も話せることを含めるとアデルの脳のキャパが計り知れません。（たった 1 つの第二外国語に苦しんでいた筆者涙目🥹）

そんな彼女もあと 1 ヶ月強で母国のスイスに帰ります。つまり彼女の演奏をコンサートで聴ける機会は最後になります。お楽しみください。
ちなみにスイスに帰って一年勉強した後、今度は中国に留学するんだとかしないんだとか。

また会おうね！！！

3.　モーツァルト：ピアノ・ソナタ 第2番 ヘ長調 K.280 第3楽章
　　ラヴェル：「クープランの墓」 1. プレリュード
　　工学部環境社会工学科　2年　浜口怜子（はまぐちれいこ）

〈曲紹介〉

モーツァルトと言えばピアノ・ソナタが非常に有名だと思うのですが、今回はその中でちょっとマイナーな2番の3楽章を選びました。10年以上前、通っていたピアノ教室でこの曲を弾いていた生徒のお姉さんがいて、なぜかずっと耳に残っている曲です。軽やかに弾けるよう頑張ります！

「クープランの墓」は6曲から成る組曲で、今回は1曲目のプレリュードを演奏します。原題は〈Le Tombeau de Couperin〉で「クープランに代表されるバロック音楽の形式を借りた追悼曲」という意味なのですが、和訳がド直訳すぎてこんな変なタイトルになったそうです。美しく流れるようなプレリュードの曲調からはあまり想像がつかないのですが、実際には第一次世界大戦で戦死したラヴェルの友人たちを追悼して作曲されたのだとか。そう言われてみると、儚げなメロディや陰りのある和声が仄かに死を匂わせている感じがします。繊細な表現をうまく弾けたらいいなーと思います！

〈他己紹介〉

我らが33期部長、浜口怜子ちゃんの紹介をさせていただきます！怜子ちゃんは、圧倒的な実力を持ちながらいつも控えめです。個人的にはもっと「ドヤァ」としていてもいいと思います。私はこれまでのコンサートですっかり怜子ちゃんの演奏の虜になってしまったので、今回のコンサートでも演奏を聴けるのが嬉しくてたまりません！

更に怜子ちゃんは部長としての仕事にも全力で、完璧なスケジュール管理で運営役員をリードしてくれています。通常の仕事に加え、ちょっとした雑用や突発的な事態への対応などもこなしていて、仕事しすぎなくらいです。運営役員(一応)として、できる仕事は積極的に奪っていきたいところです…。今期のピアノクラブは怜子ちゃんがいないと成り立っていなかったのではないでしょうか。

そんな怜子ちゃんは今回も素晴らしい演奏を披露してくれることでしょう！皆さんお楽しみに！

4.　シューマン：子供の情景 Op.15

第 1 番 見知らぬ国々と人々
第 2 番 珍しいお話
第 3 番 鬼ごっこ
第 4 番 おねだり
第 5 番 みちたりた幸福
第 6 番 重大な出来事
第 7 番 トロイメライ
第 8 番 炉端で
第 9 番 木馬の騎士
第 10 番 むきになって
第 11 番 こわがらせ
第 12 番 こどもは寝入る
第 13 番 詩人は語る

理学部数学科　3 年　武藤慎治（むとうしんじ）

〈曲紹介〉

シューマンの子供の情景は，子供から見た情景を見た曲ではなく，大人から見た子供の情景を描いた曲です。1 番から 13 番までひとつの物語となっている曲です。有名なのは 1 番の「見知らぬ国々と人々」と 7 番の「トロイメライ」だと思いますが，全部聞くとより楽しめると思ったので，今回は全曲弾くことにしました。個人的に好きなのは 12 番です。全部の曲の中で最もシューマンの内向的な音楽性が現れているお気に入りの曲です。

２０代のはじめに指の故障からピアニストの道を断念し，作曲家としての道を歩み始めたシューマンは，やがてピアノの師でもあったフリードリヒ・ヴィークの娘、クララ・ヴィーク（後のクララ・シューマン）と恋に落ちます。しかし、この恋愛はクララの父，ヴィークの猛反対に遭い最終的には訴訟沙汰にまで発展することになります。この作品が書かれた１８３８年頃はまさに二人を引き離そうとするヴィークの妨害と誹謗中傷に耐えながらもクララとの愛を貫いたそんな時期です。

この頃にシューマンがクララに宛てた手紙の中には「あなたは時々子供みたいだと君は言ったね。僕はその言葉の余韻の中でこの曲を作曲したんだ。」との内容が書かれているそうです。

20 分の長い演奏ですが，最後まで飽きないように演奏しますので，是非最後まで

お聞き頂けると嬉しいです。

〈他己紹介〉

ピアノを置くためにまさかのメゾネットのマンションに住み(到底男子大学生一人暮らしとは思えない)・家の中は実家並みの充実ぶり・牛肉は基本大丸・阪急百貨店での買い物が日常、そんな金銭感覚バグっちゃってるセレブなのに、0 泊 2 日で稚内旅行、真夜中のダム湖巡り、弾丸知床旅行なんかもしちゃう運転大好き頭のおかしな武藤さんをインタビュー形式で紹介していきたいと思います！！！

中の人： まず初めに出身はどこですか？

武藤： 大阪府吹田市で、中高は 6 年間甲陽学院という男子校に通っていました。

中の人： 中高男子校だったのにどうしてほぼ男子校みたいな理学部数学科を選んだのですか？

武藤： 一時の気の迷いと、逆張りを極めた結果ですね…数 II でやった軌跡と領域に納得がいかなかったときに出会った「論理学で数学を学ぶ」という本がきっかけです。その時初めて数学は「正しく」学べばめっちゃ面白いな〜って思っちゃったんですよ。

高校までの数学教員って一定数やばいこと教える人いるじゃないですか。そういう人たちって大方数学科出てないんですよね。僕はそういう数学教員が本当に嫌いだったんだと思います(笑)。物理が得意で理物にしようかと考えていた時期もあったけど経験則である物理法則が腑に落ちなくて、気づいた時には数学科に出願してましたね。やっぱり気の迷いと逆張りで間違いないです。

中の人：数学科って何をするんですか？

武藤： 数学以外はほんとに何もやりません。月曜から金曜までずっと、代数・幾何・解析と数学で埋め尽くされています。なので僕は 1 年生の全学の授業にもぐり(ちゃんと履修)しています(笑)。木曜 1 限と金曜 5 限とかいう非常に微妙な時間ですけど…。

中の人：だいぶ変わりものですね…。そしたら趣向を変えて、ピアノ以外の趣味ってありますか？

武藤：地理と旅行と鉄道です。趣味が高じて、大阪から飯田線青春 18 切符で日帰りしたり、さっきも言われたけど真夜中に広義原田家っていうピアノクラブ内の

ふざけたメンバーと廃線とかを見に行くドライブしたりしてますね。
中の人： 北海道大学のいいところは何ですか？
武藤： 北大というのは本州から離れていますよね。だけど多くの研究者が来ていて，割と刺激的であるというのはまず一点目ですね。二点目は逆に，東京から離れているからいいと思います。何かというと，東京にいると刺激が大きすぎる。やはり人間，自分の能力をこえた刺激が過剰に来るというのはあまりいい状況ではなくて，北海道大学はそういう意味で研究機関として活発であり，且つ適度な刺激であるという点で地の利がいいと思う。しかも数学というのは距離はあまり関係ないですよね。要は図書が充実していて，自分の勉強する時間とある程度の小さな研究する場所があればいいという事ですから。北大というのはそういう意味で数学の勉強にはふさわしい所と思います。
あと，自然もいいですしね。

中の人：その広義原田家の人たちから 22 歳の目標で武藤さんが変なことを言っていたって聞いたんですが、実際になんて言ったんですか。
武藤：数学の専攻を決める、と「まともな」彼女を作る、ですね。
中の人：みんなが笑いの種にしていたのはきっと後者ですね。どっちも達成できるといいですね～()。
改めまして、長くなりましたが本日はインタビューをありがとうございました！

こんな武藤さん、練習会では二日酔い酒気帯び演奏でしたが、今日は素面で子供の純粋さを汚さないようにシューマンの子供の情景を演奏してくれます！
ではでは皆さん、穢れた大人が奏でる穢れのない子供の情景をお楽しみに～

第二部

5.　ドビュッシー：前奏曲集 第２集より 「花火」

工学部環境社会工学科　２年　酒向みなみ（さこうみなみ）

〈曲紹介〉

今回も前回のスプリングコンサートに引き続きドビュッシーの作品です(ちなみに次もドビュッシーの予定です、あしからず)。

この曲は７月 14 日のフランスの革命記念日を描いたものと言われていて、終盤にはフランス国歌である「ラ・マルセイエーズ」のメロディが引用されています。ちょうど時期が合うのでこれはサマーコンサートで弾くしかない！と思ってエントリーしました。「花火」という曲名(正確には曲名ではないのですが…)から連想される賑やかな雰囲気とは異なって、祭りの中心にいるというより喧騒が遠くから聞こえてくるような曲だと思います。

私が初めてこの曲を聴いたときは「全然花火っぽくないじゃん！」と思ってしまいました。それもそのはず、私が花火と聞いてイメージしたのは夏の花火大会だったからです…(笑)。皆さんも花火大会のイメージに引っ張られすぎないように聴いてみてください。この曲そのものが持つ雰囲気がしっかり伝わるように頑張ります！

〈他己紹介〉

いつも笑顔なみなみちゃん。聞き上手すぎてついついマシンガントークをしてしまいます、反省。。彼女といると話をしているだけで半日とか潰れます。時間を溶かす怪物。最近は彼女に会うためにサ館に行っていると言っても過言ではありません。（しっかり沼にハマってます。）

そんなみなみちゃん、ピアノを弾いている姿はちょっと怖い。お気に入りのドビュッシー曲ともなれば、何かに取り憑かれたかのように鍵盤に向かっています。初対面の日は３時間くらい弾き続けていました。ピアノクラブで２番目に日常とのギャップがある人だと思いますね、はい。

今回の選曲、「花火」も勿論ドビュッシー。途中のフレーズで「たまや～」に聞

こえるところがあるのですが、一回言われてから、「たまや」が頭から離れなくなりました。
どこの国も花火は同じような表現になるのでしょうか笑
　サマーコンサートにふさわしい花火、楽しみです！

6.　ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第 17 番 ニ短調 Op.31-2 「テンペスト」
第 3 楽章
歯学部　3 年　青山翔（あおやましょう）

〈曲紹介〉

ベートーヴェンは難聴の悪化による絶望感から「ハイリゲンシュタットの遺書」を記し、自殺すら考えていました。それでもベートーヴェンは強靭な精神力により苦難を乗り越えて新しい音楽を創造していったそうです。そんな時期に作曲されたのがテンペストです。その曲名の由来はベートーヴェンの弟子のアントン・シンドラーが師にこの曲の解釈を尋ねたところ、「シェイクスピアの『テンペスト』を読め。」と言ったことによるそうです。最後に、感情豊かに演奏したいと思います。

〈他己紹介〉

青山くんは高校時代の 3 年間、部活で線香花火の研究に打ち込んでいて大会でも発表していたそうです。研究者っぽくて真面目そうに見えて実は結構テキトーなところもあります。しかし、努力家であることは間違いないでしょう。そんな青山くんの演奏、期待しています。

7.　ショパン：ワルツ 第 6 番 変ニ長調 Op.64-1 「子犬」
ラフマニノフ：練習曲「音の絵」 第 6 番 イ短調 Op.39-6
工学部機械知能工学科　3 年　坂野遼太郎（ばんのりょうたろう）

〈曲紹介〉

子犬のワルツ:
英語名では"minute waltz"として知られるワルツです。「1 分間のワルツ」という

意味だと思っていたのですが、minute は本来「とても小さな」を意味する「マイニュート」とい言葉らしいです。wiki にはそう書いてありました。知らなんだ…
さて、日本では子犬のワルツとして知られるということで、昔飼っていた犬のことを思い出しながら弾きたいと思います。
(実はショパンのワルツ初挑戦です。がんばるぞー！)

音の絵:
ラフマニノフ作曲の「練習曲」です。嫌な予感しかしないですね。右手の同音 2 連打、左手のアホみたいにデカい跳躍、和音として進行する信じられないほど気味の悪い半音階…非常に技巧的な曲です。
この曲は童話「赤ずきんちゃん」をモチーフにして書かれています。可愛い曲なのかなと思ったら、狼に追い回される恐怖が残酷に描写されています。果たして生きて帰れるかな？
この曲を弾く時は明るい曲とセットで弾きたいなーと思っていました。1 曲目で花園へ遊びに来た赤ずきんちゃんを、2 曲目で地獄に叩き落としたいと思います。

〈他己紹介〉
ばんにょと言うあだ名が最近流行りつつある。
ん〜食べる。
のんびりしてる。基本。
りょく黄色野菜食べた方がいいよ。
よく食べる。じゃがりこサラダ味が好き。
う〜ん食べる。
たべるーが口癖。
ろしあのピアニスト、ラフマニノフが好き。
うまお面かぶりがち。

ピアノクラブ 32 期のエース。有名な演奏はスケ 1、彼の演奏には密かにファンが付きつつある…彼の演奏中の(｀・ω・´)ｷﾘｯとした雰囲気と普段の緩い雰囲気のギャップは激しい。そこも彼の魅力の一部なのかもしれない…

8.　ショパン：舟歌 嬰ヘ長調 Op.60

医学部保健学科　卒　永山聖士（ながやままさし）

〈曲紹介〉

バルカローレ、舟歌です。譜読みしたところでは、ロマン派時期の特徴的な旋律の構成、ショパンらしいメロディの遷移が随所に見られました。中間部に日本語にするとボートでイチャつくカップルを表現したと解されているフレーズが挟まっていて、印象的です。

〈他己紹介〉

卒業して在学生の近況がよくわからなくなってしまったので改めまして。作業療法の資格を取り、恵迪寮の下手の八軒の地元で、高齢の方が対象の介護施設で働き始めています。

大学受験の頃、当時のセ試にバカロレア入試たる枠が設けられていて、何がバ〇なんだろうと本気で思っていた生意気な子供時代で、性格は今も変わっていません。

2 年前にサークル参加した時はコロナ対策の真ん中で、半年間コンサート出演ができなかったため、運営と相談して特例的に今回が最後のエントリーとなりました。

9.　アルカン：グランドソナタ 「4 つの時代」 Op.33 4 楽章 「50 代-縛られしプロメーテウス-」 極端に遅く

理学部数学科　4 年　笹木元太（ささきげんた）

〈曲紹介〉

この曲は 1848 年にフランスの作曲家シャルル=ヴァランタン・アルカンにより作曲されました。4 楽章からなる長大なソナタで演奏には 45 分程度かかります。各楽章には順に「20 代」、「30 代-ファウストのように-」、「40 代-幸せな家族-」、「50 代-縛られしプロメーテウス-」という副題がついています。この副題からこの曲は人の一生を表しているソナタであると考えられます。 このソナタが他のソナタと大きく異なるところとして 1 楽章がスケルツォから始まり、2 楽章でようやく拡張

されたソナタ形式、3 楽章が緩徐楽章、4 楽章が極めて遅い(Extrement Lent)フィナーレという従来のソナタからは考えられない構成となっているところが挙げられます。さらに調構造も従来のソナタでは考えられない設定になっていますが、さすが知的なアルカンできちんとそこにはロジックがあります。(長くなるので書きませんが。）リストが単一楽章の二重ソナタ形式のソナタロ短調を世に送り出し大論争になったのが 1853 年であることを考えると伝統的なソナタ形式をぶち壊しつつも一貫性のある曲として仕上げたこの作品は極めて画期的であったと言えます。しかし、この曲を作曲した当時パリは暴動が激化しており誰もこの画期的なソナタには目を向けないのでした。 そしてついにはこの曲は 1973 年にロナルド・スミスが演奏するまで一度も日の目を浴びることはありませんでした。この素晴らしいソナタは 130 年も忘れられていたというわけです。

さて、今回はこの長大なソナタから 4 楽章を抜粋して演奏いたします。作曲当時 35 歳だったアルカンはアイスキュロスの詩を冒頭に引用し文学的な世界を敷衍し、人間の一生における 50 代という時期を死と対峙する時間であると定めました。その冒頭の詩を日本語に訳すと「いや、あなたは私の苦しみに耐えることはできないだろう！運命が私を殺してさえくれれば！死ぬことは…私を苦しみから解放してくれるだろう。木星は以前の力を失ってしまったのだろう。彼が何をしようとしたとしても私は生きて見せよう。私がそのような苦痛に耐えうるか確かめよう！」となります。クレッシェンドとともに下へ下へと向かうずっしりと重い低音の連なりは死を見つめる 50 代という時間における人間の覚悟を投影しているかのようです。

この死という概念の持つ暗さと死を実感し怯える心情と死を受け入れ人生の終着点へ向け再度歩みを進める覚悟を決めた 50 代の人を念頭に今回は演奏いたします。

また、この奇妙なソナタに興味を持たれた方がいらっしゃいましたらぜひ YouTube 上で全楽章聞いていただければと思います。

なお、11 月 4 日に行われる弊クラブ OB・OG との共催コンサートではこの大ソナタの 1 楽章を抜粋演奏する予定ですのでもしよろしければまたお越しくださいませ。間に合わなかったら…ごめんなさい(笑)

P.S.

最近コロナをツモりました。
よりによって5類移行直後に感染し、診察費など諸々込みで6000円しました。
肺炎なだけあって胃腸はすこぶる元気だったのでご飯パクパクしてたら太りました。悲しい。
埼玉に帰省する予定がパァになったのも悲しかったです。
みんなも気をつけよう！

〈他己紹介〉
　その男、『暴飲暴食』につき
〜酒と煙草片手に家路についていた俺がトラックに轢かれ異世界に転生しチートスキル『暴飲暴食』を与えられ勇者パーティ一行に迎え入れられるもひょんなことからパーティから追放され何もかもを失い失意のまま当てもなく彷徨っていたところ清純派セクシーヒロインと出会い”運命”を切り開いてしまった件について〜

【作品レビュー】★★★★☆
胸焼けするかのようなタイトルからは想像出来ない、とてもハートフルで良い意味で胸を痛めてしまう作品でした。特に転生直後に主人公である笹木（転生者名:ササキ•D•ゲンタ）が転生前、大学生時代に大学祭に参加せず出身高校の学園祭に老害ムーブかまして凸ろうとしたところ、未知のウイルスに感染しその計画が破綻してしまったことを回想するシーン、まさかこれがあの結末に至る為の伏線になっていたと思わず、それに気づいた時には涙を禁じ得ませんでした。加えてこの作品はラノベマイスターの私としましては他にも評価すべき点が多く、例えば笹木が持つスキル、『暴飲暴食』は従来の異世界転生系作品に登場するどのスキルにも類似するものがなく、作者の独創性に脱帽いたしました。まさかあんな能力の活用方法があったとは！また作中の言葉選びも私的にはかなりツボでして、特に終盤、決戦前夜にメインヒロインの前で煙草を吹かしながらの『このクソ不味い煙草の味とお前の笑顔さえ護れればおれはそれでいい』という笹木の台詞、言動が普段の拙者と一致しすぎていて一瞬拙者が本の世界に転生してしまったのかと思いました（笑）他にも笹木がヒロインとの間に結ばれた絆が確かなものになった（と拙者は解釈しております）笹木がメフィスト・ダンジョンの初制覇者と

なったシーンや次回作への繋がりを匂わせる謎の組織『薔薇3界隈』の登場シーンなど拙者的一押しシーンはたくさんありますが、取り敢えずはこの辺りでwですが一点のみ疑問点があり、それを払拭することができず、今回星5レビューを見送らせていただきました。

――清純派セクシーヒロインって、何ですか？

レビュー者名：虚構インタビュアー

第三部

10.　リスト：愛の夢 第３番

工学部環境社会工学科　３年　早川桂佑（はやかわけいすけ）

〈曲紹介〉

リストが歌曲として作曲した曲をピアノ独奏用に編曲したものです。第３番は『おお、愛しうる限り愛せ』、いつかは死ぬ周囲の人々に対する人間愛を歌った曲です。

中学生の時に超上手い先輩が弾いているのを聞いて練習し始めました。

〈他己紹介〉

北海道、幌延町―――

早川桂佑の朝は早い。

換気扇の取り付けについて早川は愚痴をこぼした。

オーナーの仕事が間に合っていないという。

「まあ、ここ最近はほとんど一人ですよ。あいつはバイト行ってるから」

ゲストハウススタッフもこなしつつ机に向かうことは毎日欠かさない。

「やっぱり、行き詰まったときはピアノですね……」

この時間を早川は何より大切にする。

この極寒の幌延町問寒別で、ゲストハウスに住み込みを始めたのはなぜなのか。

「ほんの気まぐれですよ」

「雪が僕を呼んだ。そういう感覚があった」

―――あなたにとって、問寒別とは？

「そうですね……、作曲家でいえばフレデリック・ショパン、路線でいえば名古屋本線……ですね」

―――それは一体……？

「世界に欠かすことのできない、必須栄養素のようなものです。まあ、有り体に言ってしまえば納豆ですよね（笑）」

11.　モーツァルト：ピアノ・ソナタ 第９番 ニ長調 K.311

薬学部薬学科　６年　成家康太（なりやこうた）

〈曲紹介〉

ずっとショパンを弾き続けていて、このままだとポーランドに行ってしまう気がしてきたので今回はモーツァルトを弾きます。

この曲は旅の途中でモーツァルトが書いた曲と言われており、作曲した頃は「職も見つからず、恋愛もうまくいかない…」という悲惨な状況だったと言われています。

その中でも１楽章の軽やかながらも強いメッセージ性が感じられる表現や２楽章の悲しみに暮れたメロディ、そして３楽章の特徴的なリズムなど見どころ満載の曲となっています。

私も６年生であと出演なコンサートも片手で数えられるようになってきました。後輩や先輩・お世話になった人との別れはとても悲しいですが、感謝の気持ちでいっぱいです。そんな思いをこのモーツァルトの旋律に載せながら表現できれば良いなと思っています。

(果たして３楽章は間に合うのか。)

〈他己紹介〉

スプリングコンサートでトリを押し付けられた可哀想な後輩が僭越ながら紹介させていただきます。

成家さんは３代前の部長を務めたお方です。

今よりも部員がだいぶ多かった時代をまとめ上げたその総統力もさることながらピアノも非常に上手で、部の運営だけでなく、練習会ではピアノの技術面でも非常にためになる助言をしていただける弊サークルの大御所です。

知的なイメージがあり、定期演奏会では持ち前の高い技術力でトリを飾って颯爽と帰っていくクールな方ですが、実は、大好きな日本酒をがぶ飲みすると全てが反転します。

自宅のトイレのドアを開けられなくなって発狂したり、会話の途中で急に「コスタリカ！」と絶叫したり、トイレに行く途中で見つけた日向夏をキッチンで切って食べたっきりトイレに行くのを忘れたり…(美味しかったです。ごちそうさまでした。)
そんな""ドン・成家""も今年度で卒業です。今日はその上手な演奏を聴ける残りわずかな貴重な機会です。しっかりと目と耳に焼き付けたいと思います。

12.　モーツァルト：四手のためのピアノ・ソナタ　ニ長調　K.381 (123a)
農学院生命フロンティアコース 修士１年　川満龍平（かわみつりゅうへい）
工学部機械知能工学科　３年　坂野遼太郎（ばんのりょうたろう）

〈曲紹介〉
全３楽章からなる華やかな連弾のソナタです。１楽章は快活なファンファーレから始まり、連弾ならではの掛け合い、ダイナミックな響きを聴くことができます。BNN との連弾は２回目。何かの間違いか最後の演奏になるそうなので頑張ります。

〈他己紹介〉
川満さんの人物紹介書きます。

最近「可愛い」疑惑が出ている川満さんです。髪の毛の青が抜けてきたなーと思ったらいつのまにか黒髪になってました。気分変わったんですか？と聞いたら、「親来るから～」と。どうやらご両親には髪染めてない、ピアスしてない、麻雀は付き合い程度で雀荘バイトしてない、お酒飲んでないと、ものっすごい模範学生として伝わっているらしいです。そんな事ある？
さて、そんな川満さんですが、彼のことを「ちいかわみつ」と呼ぶ人がいるとかいないとか。何ででしょうね。手が小さい川満とか、「ﾜ…ﾜ…!」のマネが非常にそれっぽいとか、前述した可愛い疑惑とか、色々理由はあるみたいです。
そんな可愛い？川満さんですが、今回のモーツァルトはどんな感じに仕上げてくれるんでしょうか。楽しみですね！

今後のコンサート

9月2日(土)・3日(日)　旧帝大合同ピアノコンサート

主催：名古屋大学　@中電ホール

開場 12:30　開演 13:00

9月30日(土)　フレッシュマンコンサート

@クラーク会館 講堂

10月13日(金)　オータムコンサート

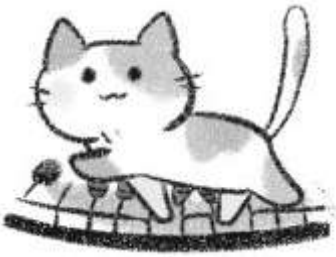
@クラーク会館 講堂

開場 18:00　開演 18:30

11月4日(土)　OB・OG・現役生 交流コンサート

@札幌市民交流プラザ クリエイティブスタジオ

12月24日(日)　ウィンターコンサート

@かでるホール

開場 12:30　開演 13:00